

分野	項目	①地区医師会モデル			②訪問看護ステーションモデル	③医療・介護等一体提供モデル	④認知症対応モデル	⑤単年度モデル		
		安城市	豊川市	田原市	新城市	豊明市	半田市	岡崎市	豊田市	北名古屋
その他の取組	その他の取組	<p>◇ICT以外の情報共有</p> <p>安城市版の在宅療養手帳である「在宅見守りノート」を今年度中に250部作成し、配布する予定</p> <p>◇後方支援病床の確保</p> <p>基幹病院の一つである八千代病院が、平成26年11月に地域包括ケア病棟46床を開設。開業医の後方支援病床として確保</p> <p>◇事業所・住民等の交流の取組</p> <p>地域福祉マッチング交流会を1回開催(参加人数:354名)</p>	<p>◇介護の取組</p> <p>利用者等の負担軽減のため、介護施設等で使用する様式(診断書等)の統一化を目指し、各分野で協議中</p> <p>◇介護予防の取組</p> <p>・アラフィフ健幸講座(50歳前後の女性に対する健康づくりに関する講座)を4回開催(参加人数:58名)</p> <p>・アラ還(暦)健幸講座(60歳前後の男性に対する健康づくりに関する講座)を4回開催(参加人数:33名)</p>	<p>◇後方支援病床の確保</p> <p>渥美病院が、平成26年10月に地域包括ケア病棟55床、11月に医療療養病棟25床を開設(レスパイト病床含む)。開業医の後方支援病床として確保</p> <p>◇介護の取組</p> <p>・家族介護支援教室を10回開催(参加人数:58名)</p> <p>・認知症介護支援教室を10回開催(参加人数:98名)</p> <p>◇介護予防の取組</p> <p>・認知症予防教室を9回開催(参加人数:110名)</p> <p>・口腔教室を4回開催(参加人数:52名)</p>	<p>◇家族介護者への支援</p> <p>家族交流会を6回開催</p> <p>◇介護予防の取組</p> <p>・歯科衛生士による講話を4回実施(参加人数:69名)</p> <p>・管理栄養士による講話を4回実施(参加人数:70名)</p> <p>◇ボランティアの育成</p> <p>地域活動のボランティアとして活躍できる人材を育成する講座を8回開催(参加人数:126名)</p>	<p>◇団地を中心とした地域包括ケアの取組</p> <p>・けやきいきいきプロジェクト</p> <p>URが管理する豊明団地において、市、UR、衛生大、自治会の連携の下、地域包括ケアの取組を開始</p> <p>・バリアフリーマップ作成</p> <p>・暮らしの保健室開設(27年3月)</p>	<p>◇認知症に関する取組</p> <p>・認知症対応検討会議4回開催</p> <p>【構成員】市医師会、市歯科医師会、市薬剤師会、認知症支援ネットワーク等</p> <p>【内容】認知症ケアパスの内容検討、認知症カフェ設置の検討、見守り・捜索体制、初期集中支援の検討等</p> <p>・認知症に関する研修2回開催(参加人数:25名、313名 計338名)</p> <p>【内容】認知症ケアパスの活用による認知症の人の支援、認知症理解促進について等</p> <p>・高齢者認知症傾向アンケートの実施</p> <p>要支援・要介護認定者については認定調査時に得た情報を活用、介護認定非該当者については、認知症傾向を把握するためのアンケート調査を実施</p> <p>【内容】生活場面の記憶力・意欲等について</p>	—	—	—
	主な成果・課題(自己評価)	<p>○ マッチング交流会では、町内会や介護事業所等が協力、連携するきっかけ作りを行い、それにより住民活動団体・事業所等が相互に知る機会が得られた。(マッチング例:リハビリスタッフが町内会の活動で介護予防体操の講師で参加等)</p>	<p>● 介護予防講座について、男性に関しては参加が少ない。</p>	<p>○ 認知症予防教室は、A愛知みなみ、厚生連連立、口腔教室は歯科医師会と協力して実施したが、他機関と連携して実施ができたことは、市と関係機関のネットワーク強化にとって有意義であった。</p>	<p>○ 家族交流会では医師による講話を行ったことから、認知症介護者の心のケアと認知症の理解促進ができた。</p>	<p>○ 住民や関連組織の参画と合意形成のプラットフォーム整備ができた。</p> <p>● 具体的な取組の推進に向けて、組織整備・役割分担、今後の構想等の明確化を図る必要がある。</p>	<p>○ 高齢者認知症傾向アンケートにより、要介護認定のない高齢者の認知傾向を把握することができた。</p> <p>さらに、認知機能の低下が中等度以上の対象者に対して、地域包括支援センターによる戸別訪問を実施することができた。</p>	—	—	—
平成27年度以降の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、会議、研修、市民フォーラム等を実施していく。 「在宅見守りノート」を活用して、多職種間で情報共有を図っていくとともに、リアルタイムでの情報共有を目指して、ICTの導入を引き続き検討する。 新たな介護予防事業、住まい対策の検討に取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、会議、研修、普及啓発等を実施していく。 ICTについては、システムが関係機関にとって魅力的で使いやすいものになるよう、様式などシステムのブラッシュアップを図り、継続的に運用できるよう管理する。 新たな介護予防事業、住まい対策の検討に取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、会議、研修、普及啓発等を実施していく。 唯一の病院である渥美病院とも定期的に会議を開催し、連携を検討していく。 新たな介護予防事業、住まい対策の検討に取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> 各会議、研修、市民フォーラム等を引き続き実施する。 住まい対策協議会を設置・開催し、低所得者支援・要介護高齢者向けの住まいの確保に向けた検討を進める。 ボランティアセンター(社会福祉協議会)との情報共有及び協力体制を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、「いきいき笑顔ネットワーク」等の運営、多職種による研修会の開催、けやきいきいきプロジェクトの推進等に取り組む。 家族介護者支援、介護予防事業、生活支援、認知症対策など、介護分野に関する取組を拡充する。 URと連携し、豊明団地における住宅対策の取組を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 各会議、研修、市民フォーラム等を引き続き実施する。 住まいの確保に向けて検討組織を立ち上げ、必要な取組を実施する。 ICTシステムの導入、認知症初期集中支援チームの設置、認知症徘徊捜索模擬訓練の実施などを進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関連絡会議については、平成27年度以降も引き続き開催していく。 地域包括ケア関係者の研修については、多職種を対象とした研修会を実施する予定である。 「認知症支援ノート」を配布し、活用を開始する。在宅医療連携協議会は引き続き開催し、ICTの具体的な導入時期等について検討を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関連絡会議については、平成27年度以降も引き続き開催していく。 在宅医療連携協議会は引き続き開催し、在宅医療支援機能の検討及び実施を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関連絡会議については、平成27年度以降も引き続き開催していく。 在宅医療連携協議会については、平成27年度以降も引き続き開催し、特に、ICTの導入については、導入の検討をしていく予定である。 その他、多職種連携研修会や、市民向け講演会等についても引き続き実施していく。 	